

情勢報告

ナスの現地検討会が各地区で始まる



勉強会での説明状況

ナスの収穫始めとなる9月中下旬に各集出荷場ナス部会で現地検討会（9/13、9/20、9/21、9/24、9/27、9/28・生産者計102人）が順次開催された。

振興センターでは、現地圃場において初期の栽培管理のポイントや生育状況などについて助言指導した。特に、これから「黒枯病」や「すすかび病」が発生しやすい時期となることから、勉強会では昨年度の病害虫発生予察調査（計12圃場）において、「黒枯病」「すすかび病」の発生が少なかった4圃場の薬剤散布履歴を基に薬剤防除のポイントを解説した。

今後、振興センターでは防寒や病害対策に重点をおいた技術支援を行う。

JA 土佐あき稲作部会野根支部の総会でシカ対策と集落営農の必要性を提案



総会風景

9月20日、JA土佐あき東洋支所で稲作部会野根支部の総会が生産者21名の参加で開催され、25年度活動計画等を決定した。

振興センターは、シカ対策で設置が増加している電気牧柵の適正な設置・管理方法や田植え前の栽培講習の実施を説明・提案した。また、集落営農の必要性を説明し、「集落で是非話し合いを」となげかけた。生産者からは、「栽培講習会はなるべく早めに開催して欲しい」、「集落営農は以前検討したが、進まないまま高齢化した」等の意見が出された。

振興センターでは、今後栽培講習の開催支援、集落営農については集落での話し合いへの参加により、組織設立支援に取り組む。

篤農家の指導でしっかり樹づくり—唐浜集出荷場研究会ナス部会—



芸西地区篤農家の指導を熱心に聞く

9月24日、唐浜集出荷場研究会ナス部会は現地検討会を行い、生産者16名が参加した。今回は初めて地区外である芸西地区の篤農家が、振興センターとともに「土佐鷹」を中心としたナスの高収量高品質栽培技術について実演を交えながら、摘心・摘葉を中心に指導を行った。生産者からは質問や発言が活発に出て、満足度の高い会となった。

今後、振興センターではJA幹部と先進地視察やこの事例をもとに管内の地区間で連携したアドバイザー制度を確立し、栽培技術の高位平準化を進める。

兵庫県・大阪府の小学校で出前授業—環境保全型農業の取り組みをPR—



大阪府内の小学校での
出前授業風景

「高知県野菜出前授業(県産地・流通支援課主催)」として、兵庫県および大阪府内の小学校(9/24～9/25、5年生計 171人)に出向き、授業を行った。

振興センターからは高知県および安芸市の農業の概要、タバコカスミカメ(土着天敵)やタバココナジラミ(害虫)の観察や防虫ネット、ハウス被覆資材を用いた体験学習を行い、環境保全型農業の取り組みを説明した。また同行した管内ナス生産者からは環境保全型農業でのナス栽培を紹介した。講師となった生産者も第三者に広報することで環境保全型農業の取り組みの意義を再認識した。

振興センターでは今後は誰もが広報できるようにするため、産地テキストの作成やPRできる生産者の育成に取り組む。

H25 園芸年度第1回女性ナス勉強会を開催



現地圃場での視察状況

9月28日、安芸集出荷場研究会ナス部会がH25園芸年度第1回目の女性ナス勉強会を女性13名、男性2名の参加で開催した。

振興センターからは座学で生育初期の「黒枯病」、「すすかび病」等の病害防除ポイントについての講義と篤農家圃場2カ所において園主とともにこの時期の栽培管理のポイントについての助言指導を行った。

参加者からは農薬の希釈濃度や薬害リスク、整枝・摘葉の目安について熱心な質問や互いの栽培管理の情報交換が行われた。

振興センターではこれからも定期的な女性勉強会の開催を支援し、女性の栽培技術向上を推進する。

集落営農組織：大原・西ノ平生産組合の「農薬研修会」



熱心に研修中

10月3日、奈半利町大原・西ノ平集落営農組織のナス部会、スイカ部会員10名参加し、合同で「農薬の使用の基本について」の研修を行った。

「わかっているようでも、使うときにはわからなくなるのでよかった。」「すぐ手に取れるように、保存版がほしい」などの意見が出て、基本内容の確認ができた。

振興センターでは、今後も集落営農地域ビジョンの達成を目指し、適宜研修を行う。次回は「厳寒期の対応」について12月に開催予定である。

羽根、吉良川で「営農相談日」を始めました



ナスを出荷する生産者

振興センター室戸支所では、10月から営農相談日を設定して営農相談を開始した。JA職員と一緒に羽根集出荷場（10日）、吉良川集出荷場（11日）で、出荷に来た生産者に資料を配布、土壌分析も行いながら、今後の出荷の見込みや現在の病害虫の発生状況について計46戸の生産者と情報交換をすることができた。

「収量が減ってきた。」「土を持ってきたき分析して。」「この虫なに？」
「スリップスの被害が酷いき見に来て。」等、短時間ではあったが、産地の現状を知り、また日ごろの指導を徹底する好適な場となった。

振興センターでは、JAとともに新たな取り組みである「営農相談日」を継続し、定着させ、産地の育成支援を行う。

室戸市農業研究会総会を開催



知事賞の授与

10月17日、JA土佐あき室戸支所で室戸市農業研究会総会が生産者18名の参加で開催された。

総会では、栽培技術向上の一環として77名の施設野菜生産者が昨年度の作で参加した「育苗・立木コンクール」の表彰、講評があった。振興センターを中心にJA、農済等であらかじめ育苗、生育状況、収量等生育技術を点数で審査した結果、ピーマン生産者の最優秀者に知事賞を贈った。他に室戸市長賞にナス、県園芸連会長賞にキュウリ生産者等が入賞し、皆から盛大な拍手があった。

また、振興センターがコーディネートし、県環境農業推進課から「消費地から産地を見た視点」で講演があり生産者は熱心に聴きいった。

振興センターは、今後もJA等と連携を図りながら、研究会活動がより活発になるよう支援する。